

【事例2】茨城県近代美術館ミュージアムシアター

実施年度	平成15年度～17年度(予定)	連携・協働形態	委託												
事業内容	<p>茨城県近代美術館において映画を上映する。NPO(水戸映画祭実行委員会シネマパンチ)は、上映のみでなく企画の段階から運営に至るまで携わり、それに連携する形で茨城大学の学生がポスター・チラシの制作にあたる。</p> <p>事業のねらいの1つは、映画の上映を通して美術館への来館を促進することであり、上映前に企画展を紹介するトークを行うなど、展覧会の広報も併せて行っている。また、地域の映画文化への発展に寄与し、地域文化への発育にもつながる事業となることを目指す。</p> <p>平成14年度は、企画展のテーマに合わせた作品(例えば、「ドイツ表現主義の芸術展」に際して「ベルリン・天使の詩」を上映)をメインに、計9本の多様な作品を上映し、入場者数は合計1,197名であった。</p> <p>入場は自由で各回の定員は250名。開場1時間前に入場券を配布している。</p>														
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td>(完了報告を提出)</td> </tr> </tbody> </table>				計画	実施	実施後の評価	行政				NPO			(完了報告を提出)
	計画	実施	実施後の評価												
行政															
NPO			(完了報告を提出)												

(行政)

茨城県	教育委員会	担当課	文化課	電話	029-301-5442
-----	-------	-----	-----	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:行政 NPO)

この事業は当初、業務委託により行っていたが、上映する映画の内容の選定から上映まで効果的に行うためNPOへの委託とした。両者の連携にあたっては、NPO側と美術館側で業務の内容(委託契約の内容)について話し合っ進めた。

また、この事業の広報面(ポスター制作)では、茨城大学(インターンシップ授業)がかかわっているが、同大学ではNPOと美術館の連携を理解し、広報面での活動を提案してくれたものである。

役割分担

NPO側： 上映作品の提案・フィルムの準備・フィルムの上映・会場整備の業務を実施する。

行政側： 年度ごとに上映スケジュールを検討し、NPOと大学、美術館の連携を図る。
会場を美術館とし、当日の運営の手伝いや映写機のメンテナンスを行う。

大学側： 大学の授業の一貫として、ポスター・チラシのデザインを行い、印刷まで担当する。

連携・協働によるメリット等(事業成果)

- ・ 上映時間に関する業務は映写機の技術や、上映までの入場者の対応等、美術館職員のみでは手薄になるところであり、協働によりスムーズな運営ができる。

- ・ NPOが美術館で活動することにより、幅広い層にNPOの活動を周知することができる。

連携・協働する上で配慮した点

- ・ 打ち合わせを綿密に行い、必ず試写をして確認しあいながら運営していく。
- ・ 上映作品の選定においては特に、お互いの意見を出し合って決定していく。

課題と対応

- ・ 打合わせ等が勤務時間外になってしまう。
- ・ 現状で委託業務が適当であるとして行っているが、NPOとの活動のように、両者協力してということであると、「委託」という形態が妥当であるか考える必要がある。

連携・協働の今後の展望

連携・協働のシステムがスムーズに展開するようになってきたところであり、次年度は、さらに、よりよい展開や新しい上映の仕方などについても、工夫を重ね、ミュージアムシアターの確立を進めていきたい。

《協働相手のNPO》

団体名	水戸映画祭シネマパンチ	住所	水戸市
-----	-------------	----	-----